歴研おかやま
okayama history research society
第　7　号
2013年7月10日

全国大会
肥後熊本大会のご案内
十月十八日～二十日
記事第6面

定期総会　一七〇名が参加

美作国建国一、三〇〇年記念

今年度の定期総会を四月二二日、山陽新聞社さん太ホールで行った。雨の中、一七〇名が参加。天野会長の挨拶に続いて来賓、歴研本部からの竹本氏、兵庫歴研会長の柴谷氏がそれぞれ挨拶された。そして昨年度の事業報告、並びに今年度の事業計画が提案され、承認された。記念講演は、津山洋学資料館前館長の下山純正氏による「こうして津山に洋学が栄えた」と当会顧問、佐藤光範氏の「犬も歩けば棒に当たる　吉備国の話題」と題する講演が行われた。江戸後期、津山出身の洋学者達の活躍ぶり。そして美作の地名の由来等の話が聞けた。

▲総会で挨拶する天野会長（右端）

歴研に新しい支援　「ブックサロン龍紅堂」りゅうぐうどう　オープン

六月に古本等のリサイクルショップが水島臨海鉄道の弥生駅近くにオープンされました。会員が運営されますので、会としても全面応援をして参ります。古本等の寄付をよろしくお願いします。なお、売上収益の一部を歴研に寄付していただき、会の運営に協力願います。また、会員の皆様の気軽なサロンとしても利用できます。

寄付いただきたい品

・本（雑誌を除く、分類は不問）、CD、DVD、ゲームソフト、LPレコード
・切手（使用済み）・トナーカートリッジ（使用済み）・衣類、きもの、ネクタイ、ハンカチ（使用済みOK）
・陶器、骨董類、フリーマーケットで販売可能なものなら何でも

商品の流れ

①お電話、FAXにて回収の依頼
②回収の日程の相談
③ご自宅に回収に訪問
④サロン会員の方に販売
⑤残った物はフリーマーケットやインターネットを通じて販売

電話＆FAX　086・450・6616
住所　倉敷市北畝3丁目5－9
店名　ブックサロン「龍紅堂」
店主　稲見圭紅さん（企画委員長）

歴研展望

今夏は猛暑と予報されていますが、ご健勝のことと存じます。

今年度も定期総会に始まり、探訪会を実施し、暑さに負けじと当会の活動も熱くなってきております。

六月には二つの「サロン」が誕生しました。「歴研サロン」と「ブックサロン龍紅堂（りゅうぐうどう）」です。「歴研サロン」は当会顧問にもご協力いただいて講座形式の勉強会的な活動です。ブックサロンは当会運営委員で企画委員長の方が会への支援策の一環として、自ら倉敷市水島地区に開設されたもので会員の憩いの場ともなるスペースです。それぞれの内容は今号の記事をご覧下さい。

そして、当会の活動が各方面に認められ、全国歴研はもとより、様々な講演会や催しに協力の依頼も多くなってきています。このことは、岡山歴研発展への期待の現れとも言えます。さらに前に向かって行くためにも、一層のご理解とご協力、ご尽力をお願いいたします。

（会長　天野勝昭）

美作国建国一三〇〇年
なぜ「備北」でなく「美作」か

古代史研究家　佐藤 光範（当会顧問）

背景

藤原京（橿原市）から奈良に都が移されたのが七一〇年、四三代元明天皇の御代である。四三代元明天皇（三八代天智天皇の第四皇女、六六一年に誕生）は、四〇代天武天皇・四一代持統天皇の皇子・草壁皇子（二八歳で没す）に嫁がれ、四二代文武天皇・四四代元正天皇の両天皇と吉備姫内親王を生む。

文武天皇の御代、七〇一年の大宝律令により、国の範囲が決められ、吉備も備前国、備中国、備後国に分国されたと云われ、都から国司が派遣されて統治が行われるようになったと云う。

▲演者　佐藤光範氏

備前国を分国して美作国が作られたのは七一三年、大宝律令制定の一二年後である。元明天皇は一大決心をして備前国を分国された。分国して「美作国」を作られた。国名は「備北国」ではなかった。何故か。

吉備国への憧れと脅威

元明天皇（阿閉アへ皇女）は天智天皇の第四皇女で、斉明天皇七年（六六一）に生誕された。斉明天皇の母は吉備姫王で、斉明天皇は吉備のハタ氏に関心が深かった。阿閉皇女もその影響で吉備のハタ氏には深い関心があったと思える。御自分の生んだ子も「吉備姫」と命名された。

子供「文武天皇」は病弱で早死（二五歳）された。文武天皇の子・首（オビト）皇子（後の四五代聖武天皇）はまだ七歳。仕方なく元明天皇は即位されたと云う。

元明天皇が即位された時、秩父で産出した自然銅（和銅）が献上された。早速、改元され「和銅」とされた。銅冶金族と云えば「物部」か「ハタ氏」だが、元明天皇は物部氏族が気に入らなかった。即位された時に詠まれた歌が万葉集の巻一・七六番に出ている。「物部の丈夫が、何か仕出かすのではないか」と。七七番の歌には、姉・御名部（ミナベ）皇女が「元明天皇よ。貴女は大君なのです。何も心配する事はありません。代々の皇祖が力になってくれています」と励まされている。

美作は銅の産地

備前の北部は製鉄タタラより銅を生産し、朝廷に貢献していた。美作国になった六郡は「英田郡」「勝田郡」「苫田郡」「久米郡」「真島郡」「大庭郡」である。それらの郡の地名が出来た由来を考えれば「銅を生産出来る場所」だと理解できる。［アイダ＝アイタ。アの発音は冶金する。イタ（御津町伊田には銅鉱山があった）］［カツマタ。カの発音は熔かす。ツ（金属）・マ（銅）・タ（場所）］［トマタ。トの発音は銅。マの発音も銅。タ（取れた場所）］［マシマ。マの発音は銅。シの発音も銅の一種。マの発音は銅］［クメ。クの発音は金属に付随する発音。メの発音はベと共通で銅の様な金属］［オオバ。バの発音はマの発音と共通して銅］従って北部六郡は銅が取れていた地名になり、銅を取っていたハタの同族が支配権を持っていた土地だと想像出来る。

物部氏の追い落とし

現在残っている伝承によれば、七一三年、片埜（カタノ）の乙麻呂は、「中山の神」に追われて津山から南部に逃げる。正に元明天皇が上野国の堅身サンを使って物部（交野地方で饒速日命の末裔として力を持ち、銅冶金に従事した部族）の乙麻呂を、苫田・勝田の盆地から追い出したことにつながる。上野国（群馬県）は（カミツケ）の国で「ケ」とは（銅）の意味。吉備のハタ氏が移住した土地と見ている。

国名を「みまさか」美作国と書く

美作国の新しい国衙（美作国の役

所）は、入口が東に向く。同時期に出来た中山神社も東から参道が西に向かう。当時は「偉い人は北に坐し南を向く」と云う思想が当たり前だった。だからお寺も・神社も・役所も・当然宮中もすべて南に門を設けるのが当たり前だった。ただ、吉備の南部のハタ氏は、ヒンドゥー教の影響があって東から参拝する建物も作った。美作国が出来た時にはこの影響があったと考えられる。

吉備のハタ氏の末裔は、朝廷は奈良の明日香なのに京都太秦（ウズマサ）に蟠踞していた。又、ハタ氏の発祥地・総社市秦の西の山で、麻佐岐（マサキ）の磐座を祭祀していた。

これらの「マサ」の発音は［マの発音は銅。サの発音は細かい鉱石］で、銅冶金をしていたハタ氏独特の言葉だろう。その細かい銅鉱石を鎔かして［カの発音は熔かす］銅の言葉・「マサカ」の言葉が出来る。それを銅の神様の意味の［ミ］の発音を重ねて「ミマサカ」の国名が出来た。

「ミマサカ」を好字二文字で書くことは難しかったので元明天皇は「備前国の北に作った新しい国は、備北国ではなく、銅（ミ）を作る国だから、ミを好字・美にして［美（ミ）を作る国］美作国と書くことにしよう」決められた。

和銅六年（七一三）四月三日のことである。

箕作阮甫、恐るべしその系譜

洋学史学会理事　下山 純正

幕末の対米、対露交渉で活躍した、津山藩医箕作阮甫。その隆々たる系譜を評して、「箕作の血は学者の血、佐藤の血は医者の血」と言ったのは明治期の文学者で政治評論家として著名な福地源一郎でした。ちなみに佐藤とは、現在の千葉県佐倉市が生んだ、順天堂創始者の医家佐藤泰然のことです。

阮甫夫妻は四女に恵まれますが、二女は夭折。せき（阮甫一女）は、江戸詰の広島藩医呉黄石に嫁し、孫には国勢調査の原案を作成した統計学者の呉文聡、東京大学医学部精神病学の権威呉秀三、ひ孫には日本大学総長を勤めた呉文炳などがいます。

▲演者　下山純正氏

箕作家は、ちま（阮甫四女）に地理学者の省吾（旧姓佐々木）を養子に迎えますが、その間に一粒種の麟祥が生まれています。麟祥は慶応三年（一八六七）、将軍慶喜の名代徳川昭武一行に随行して渡欧、フランス・イギリスに赴き、経済や法律を学び翌年帰国したのでした。明治期においては司法省で法制整備を任され、民法や商法などを手がけています。「憲法という言葉を、今ある意味に位置づけた法制官僚」と称されています。つね（阮甫三女）も、秋坪（旧姓菊池）を養子に迎え、四男をもうけました。奎吾（秋坪一男）・大麓（秋坪二男）は慶応二年（一八六六）に十五歳と十二歳という若さで、幕命でイギリス留学したのですが、幕府崩壊により慌てて帰国します。奎吾は少年期から開成所（東京大学の前身）の教師をしていたほどの秀才だったのですが、惜しいかな二十歳の時、隅田川で遊泳中に溺死。大麓の方は十五歳の時、官命で再びイギリスへ渡り、最終的にケンブリッジ大学を首席で卒業します。成績が大変優秀だったことから「東洋の奇男児」とあだ名がつけられたほどでした。帰国後、東京大学教授（数学）から総長、第一次桂内閣時の文部大臣、京都帝国大学総長などを歴任しています。大麓は養子となった父方の「菊池」姓を継ぎ、菊池大麓と改名しています。

その娘タミ（大麓一女）は、天皇機関説で知られる憲法学者美濃部達吉に嫁し、二人の間には、のちに東京都知事や参議院議員を歴任した、美濃部亮吉が生まれています。

昭和五十七年十二月九日、亮吉は箕作家墓参を目的に、津山を訪問され、その夜の座談会「祖父菊池大麓を語る」では、大麓との思い出を語られました。翌日訪問した洋学資料館では、箕作家ゆかりの資料に、じっくりと目を通し、父の名も入っている家系図の前に来ると「祖父以前の家系がよく分って驚いた」と食い入るように見つめ、少年期の自分の写真が写っている菊池一族の記念写真の前では「やあ、懐かしいね」を連発されていたのを思い出します。

また、千代（大麓二女）は民法学の鳩山秀夫に嫁し、冬子（大麓三女）は労働法の末広厳太郎と何れも学者に嫁しています。正士（大麓七男）は、電子線回折実験で世界的に認められた人物ですが、彼が発見した回折像に現れる平行線は「菊池線」と言われています。東京大学教授で東京理科大学長、原子物理学者で文化勲章受章者でもあります。正士は、他人からこの優秀なる箕作家系の一員と見なされることは苦手だったらしく、「遺伝というものがあるにしても、それは三代までのこと、私には関係ない」と、宴席で話していたそうです。

箕作阮甫（津山洋学資料館資料より）

佳吉（秋坪三男）は海洋動物学者として知られ、日本人として初めて東京大学で動物学の講義を開始しました。豊富な学識をもって、学界および実業、ことに水産事業への貢献は甚大でした。特に、世界で初の養殖真珠に成功した御木本幸吉（ミキモトパール）を指導したことは有名。鳥羽の御木本幸吉記念館や真珠博物館を訪れると、佳吉と幸吉の出会いが、アニメーションなどで子どもにも分りやすく紹介されています。明治四十年（一九〇七）、病気のため理科大学長を辞し、二年後五十一歳で没しますが、その訃報が米国に伝わったとき、米国学界の人々は「日本は一偉人を失った」と惜しんだそうです。

続いて元八（秋坪四男）ですが、彼は西洋史研究の大家です。幼いころから父の私塾「三叉学舎（英学塾）」の門人だった平沼淑郎（のち大阪市助役・早稲田大学学長）、阪谷芳郎（のち大蔵大臣・帝国銀行協会長・専修大学総長）らと交わり、「秀才三少年」と称されます。十三歳にして早くも「北米合衆国独立戦争史」を小冊子として仕上げていることには驚かされます。その後、ヨーロッパ各地に留学し、明治三十五年帰国後、東京帝国大学教授となりました。昭和天皇が東宮（皇太子）時代に西洋史を講じたことでも知られる。

元オリエント美術館長植田心壮の回顧談『呵々・伝えておきたい話』に昭和四十二年（一九六七）四月、蒜山高原での植樹祭のため来岡された昭和天皇の興味深いエピソードが、載っています。〈主要行事を終えられた陛下が、草原散策や酪農事情の見学中、突然、随行の知事に「知事さん、箕作の家はどうなっていますか？」とご下問された。当時の知事加藤武徳は「はあ・・あの・・」と絶句。知事には当時、箕作家のことなど頭の中にはなく、即座のお答えはできず、心中大あわての状況だった〉というのです。陛下は、懐かしく敬愛する箕作元八の祖父が洋学者箕作阮甫であり、津山の人であることを思い出され、ふと、尋ねられたのでしょうが、知事にとっては思いもかけないご下問となってしまいました。

また、昭和四十七年、陛下がニューヨークタイムズ紙のインタビューをお受けになった際、「これまで誰かの影響を受けたことがございますか？」との質問に対し、「私はこれまで数え切れぬ人々から知的影響を受けてきたが、唯一最も偉大な影響を受けた人物がいる。それは日本の英雄や天皇、または有名な科学者などではなく、箕作元八という名の教授である」と発言され、側近をあわてさせてしまいました。元八はその時話題となった学者なのです。

団体紹介

「吉備の地域創生学」を目指して

「吉備学会」名誉会長　松畑　熙一（当会顧問）

古代吉備国を基盤とした新しい吉備地域づくりに取り組む学会として、「吉備学会」を2007年３月に設立した。地域主体（ローカル）からの世界（グローバル）への発信、すなわち「ローバリズム」の追求を基盤にした地域創生学を新たに確立したいと考えている。地域創生学の確立にあたっては、新たなパラダイム・哲学に基づいて、新たな社会総合学として体系化することを目指したい。

現在は、歴史研究部会、文化研究部会、食農教育研究部会の３研究部会でそれぞれのテーマに基づく研究会を基盤に活動し、望ましい地域の創生を目指し、地域から全国・世界へ発信しうる内容となるよう努めている。

歴史と文化が育ててきた良きものを「保存」（守る）・「再生」（取り戻す）し、より望ましいものを「創生」（創り出す）活動を進めねばならない。たとえば、岡山を中心にした「吉備の国」における「桃太郎王国」としての歴史的・民俗学的研究を総結集し、岡山県と香川県とが連携・協働して、「桃太郎文化・経済圏」を建設し、「桃太郎文化学」を確立して文化を通しての地域創生に努力したい。ひいては「桃太郎」の精神を重んじ、すべての命を大切にし、地球環境を守り、共存共栄を目指すものである。そのようなプロセスを踏みながら、夢のある明るい吉備地域を創生し、地域創生学としての「吉備学」を確立したいと思っている。

◀第七回吉備学会講演会の一齣

熊山遺跡調査・研究会

理事　大河内栄子

備前地域の最高峰、熊山は昔から霊山として崇められてきた山です。山頂及び周辺部には大小の石積遺跡が３３基以上確認されていて、古代より活発な、宗教活動の場としての歴史があります。

特に山上部の元霊仙寺跡にある方形三段の石積遺跡は、奈良時代の石造遺跡として特異な形態であると注目され、県外からも、毎年多くの見学者が訪れています。

熊山石積遺跡群調査・研究会は平成13年4月に会員数２１６名で結成されました。石積遺跡の現地調査や考古学専門家の講演会、会員の研究発表会などを開催、会員各自それぞれの視点で活発な研究に取り組んでいます。又、熊山遺跡解明に参考になると思われる県外遺跡地への研修旅行も、年１回実行され会員同士の親睦交流の機会としています。

毎年11月第４土曜日に熊山にて一般参加遺跡見学会を開催し、会員が説明案内します。その折、地元の熊山神社氏子の方々の暖かい応援お接待があり、参加者一同、熊山の不思議な石積遺跡と美しい景勝と共に、感謝と感動を覚えます。

会報・熊山の石ふみ　年二回発行

ホームページ「熊山遺跡研トップ」

http://www7a.biglobe.ne.jp/~nakanishi/kumatop.html

▶熊山石積遺跡

第六回 探訪会

津山市・美作市探訪

六月一日（土）梅雨空の下、六十四名がバス一台と車二台で津山洋学資料館・城東地区散策・津山弥生の里・中山神社・八咫の鏡発掘地・流王家の碑を探訪した。津山洋学資料館では下山前館長の案内。行きのバスでは佐藤顧問が美作の名前の由来を説明。帰りのバスでは山崎副会長が後南朝に関わる話題を披露。美咲町飯岡の流王家の碑では、流王農さんと長女の眞佐子さんから流王家の話を聞いた。参加者は秘められた歴史に聞き入った。

津山洋学資料館庭で記念撮影

備中松山藩主の別邸「旧備中松山藩御茶屋」（高梁市奥万田町）の整備工事が完成し、六月九日落成式が行われた。

今後の予定

- 7/23（火）第2回「歴研サロン」
  「後南朝＝植月御所と菅家七流」
- 9/26（木）第3回「歴研サロン」
  「剣聖　大月関平伝」
- 10/18（金）～20（日）
  全国大会（熊本市）
- 10/27（日）備後路の歴史探訪
- 11/26（火）第4回「歴研サロン」
  「山田方谷と子弟たち」

全国大会

肥後熊本大会のご案内

時　十月十八日～二十日
所　熊本県熊本市
第一日目　式典・記念講演・祝宴
第二日目　見学会①加藤・細川家が遺したもの（熊本城・水前寺公園・他）を探訪する
第三日目　見学会②古代ロマンの宝庫くまもと（装飾古墳館・他）を探訪する

岡山から十名以上を参加目標にしており、奮ってご参加ください。ご希望者は岡山歴研事務局まで申込ください

実施日　十月二十七日（日）
案内人　大月基司・遠山義雄・平井悦夫
アドバイザー　野崎豊顧問

お知らせ

第七回探訪会 備後路の歴史探訪

10月27日（日）

行先（予定）
・備後国分寺跡・小山池廃寺・最明寺跡（駅家跡）・双子塚古墳・最明寺（板碑）・備後吉備津神社・広島県立歴史博物館・福山城博物館・明王院・草戸千軒遺跡

「歴研サロン」発足

第一回「歴研サロン」が六月二五日開催され三〇名が参加しました。大河原喬氏（当会顧問）が「二備一作考」と題して話され楽しい会となりました。

第二回（定員六十名）
開催　七月二三日（火）
講師　山崎泰二氏　流王農氏
　　雪吉政子氏　江見則勝氏
テーマ「後南朝＝植月御所と菅家七流」

第三回（定員四十名）
開催　九月二六日（木）
講師　芝村哲三氏（当会顧問）
テーマ「剣聖　大月関平伝」

第四回（定員六十名）
開催　十一月二三日（火）
講師　中山　亘氏（会員）
テーマ「山田方谷とその子弟」

●叙勲●　当会顧問で加賀郡吉備中央町在住の芝村哲三氏（八八歳）は瑞宝双光章を六月に受章されました。おめでとうございます。

■編集後記■　定期総会の記念講演、二題とも非常に興味深かったので下山氏、佐藤氏に頼んで寄稿をお願いしました。ブックサロン「龍紅堂」が水島にオープンしました。また、企画「歴研サロン」が六月から始まりました。歴史愛好家の集いになればと願っています。（楠）

発行　岡山歴史研究会
会長　天野勝昭
編集長　楠敏明
事務局　〒701－1332
岡山市北区平山　844－86山本方
電話　086・287・6226